

第73回IASB会議報告(11/13~11/16):要旨

1. 国際会計基準審議会(IASB)の第73回会議が、2007年11月13日から16日までの4日間、ロンドンのIASB本部で開催された。会議には、審議会メンバー13名が出席した(1名は欠員)。
2. 今回の会議での検討事項は次の通り。
  - ① 企業結合(適用開始日を2009年1月1日から7月1日に変更)
  - ② 財務諸表の表示
    - (a) キャッシュ・フロー計算書関連(直接法を選好するが、費用対効果を勘案した方法(間接的 direct 法)の検討)
    - (b) キャッシュ・フロー計算書と包括利益計算書との間の調整表(収益に影響しないキャッシュ・フロー、発生主義及びシステムティックな配分、反復する評価損益及び反復項目以外の再測定)
    - (c) 小計及び合計
  - ③ 収益認識(測定モデルの検討)
  - ④ 公正価値測定

基準ごとの検討を行う前提として、現在入口価値及び現在出口価値の定義を検討し、暫定的に合意。
  - ⑤ 概念フレームワーク(測定フェーズの今後の取り進め方)
  - ⑥ 保険会計(保険契約者の会計処理は、ディスカッション・ペーパーを公表することなく、公開草案の中に織り込む)
  - ⑦ そのほか、プットできる金融商品、関連当事者取引の開示などが議論された。
3. 教育セッションでは連結が取り上げられ、連結の範囲を、SPEも含め、単一の支配モデルを用いて決定するという方向でスタッフが準備をしていることが紹介され、議論が行われた。

以上